

プロレタリア独裁のもとでの
文化大革命の勝利万歳



プロタレリア独裁のもとでの
文化大革命の勝利万歳

中華人民共和国成立十八周年を祝って

外文出版社

北京



われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席



偉大な指導者毛主席とその親密な戦友林彪同志



中華人民共和国成立十八周年祝賀大会で演説する
毛主席の親密な戦友、われわれの副統帥者林彪同志



偉大な指導者毛主席とその親密な戦友林彪同志および周恩来同志

毛主席のことば

私心とたたかひ、修正主義を批判しなければ
ならない。

目次

- 中華人民共和国成立十八周年祝賀大会における
林彪同志の演説…………… (一九六七年十月一日) …… 1
- 中華人民共和国成立十八周年祝賀レセプションにおける
周恩来総理のあいさつ…………… (一九六七年九月三十日) …… 8
- プロレタリア独裁のもとの文化大革命の勝利万歳
中華人民共和国成立十八周年を祝って
…………… 『人民日報』、『紅旗』、『解放軍報』編集部 (一九六七年十月一日) …… 14
- 毛沢東思想を大いとうち立てる偉大な革命…………… 『紅旗』社説 (一九六七年第十五号) …… 32
- 「私心とたたかい、修正主義を批判する」ことは
プロレタリア文化大革命の根本方針である…………… 『人民日報』社説 (一九六七年十月六日) …… 46
- 修正主義を批判するには
私心とたたかわなければならぬ…………… 『解放軍報』社説 (一九六七年十月八日) …… 52

中華人民共和国成立十八周年祝賀大会における

林彪同志の演説

(一九六七年十月一日)

同志のみなさん、友人のみなさん

きょうは中華人民共和国成立十八周年にあたります。この輝かしい祝日に、わたしは、わたしたちの偉大な指導者毛主席にかわり、党中央を代表し、中華人民共和国政府を代表し、中央軍事委員会を代表し、中央文化革命小組を代表して、全国の労働者のみなさん、農民のみなさん、人民解放軍の指揮員・戦闘員のみなさんに、全国の紅衛兵のみなさんに、全国の革命的幹部、革命的知識人のみなさんに、また全国の各民族人民のみなさんに、もっとも熱烈なあいさつをおくりします。そして、世界各国から来られた同志のみなさん、友人のみなさんに、心から歓迎の意をあらわします。

きょう、わたしたちはプロレタリア文化大革命が偉大な勝利をおさめているとき、また内外

に一面のすばらしい情勢があらわれているときに、中華人民共和国成立十八周年を祝っています。

毛主席がみずからおこし、みずから指導しているプロレタリア文化大革命運動は、全中国に普遍的に広がっています。何億という人民が立ちあがっています。首都から辺境にいたるまで、都市から農村にいたるまで、工場の職場から労働者の家庭にいたるまで、十いくつの子供から白髪の老人にいたるまで、みな国家の大事に関心をよせ、プロレタリア独裁を固め、強化することに関心をよせています。これまでの大衆運動で、今回のように広く、深く大衆が動員されたことはありません。広範な労働大衆、広範な人民解放軍の指揮員・戦闘員、広範な紅衛兵、広範な革命的幹部と革命的知識人は、この一年らしい闘争をつうじて、一步一步連合し、堂々たる革命の大軍をつくりあげました。かれらは、毛主席をはじめとする党中央の指導のもとに、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派を徹底的にたたきのめし、全面的に崩壊させています。

中国のプロレタリア文化大革命に肝をつぶしたアメリカ帝国主義、ソ連修正主義、各国反動派は、かつてこの大革命がわが国の国民経済を混乱させることに期待をかけていました。しか

し、事實は、これらの旦那方の願ひとはまったく逆でした。プロレタリア文化大革命は生産力を一段と解放しました。わたしたちの工業生産の勝利の吉報が、いま、ひっきりなしに伝わってきています。わたしたちの農業は連続六年目の好収穫をあげました。わたしたちの市場は活気にあふれ、物価は安定しています。わが国が水素爆弾の実験に成功したことは、わが国の科学・技術が新たな発展水準にたつたことを示しています。さらに重要なことは、今回の文化大革命が、大衆を教育し、青年を教育し、大いに全国人民の思想の革命化を促進し、各民族人民の大団結を促進し、幹部をきたえ、人民解放軍の全指揮員・戦闘員をきたえたことです。わたしたちの偉大な祖国が、今日のように強大になったことはかつてありませんでした。

わたしたちのプロレタリア文化大革命は、すでに決定的な勝利をおさめています。これは国際共産主義運動の歴史において、プロレタリア独裁の国家で、プロレタリア階級がみずからおこした最初の大革命です。これは毛主席がマルクス・レーニン主義にもたらした天才的、創造的、画期的な、新しい発展です。

わたしたちは毛主席の偉大な呼びかけにこたえ、組織面からブルジョア司令部を徹底的にたたきつぶさなければならぬだけでなく、また、より広範な、より深刻な革命的大批判をくり

ひろげ、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派を、政治、思想、理論の各面から批判してうち倒し、くさいものにし、かれらを永遠に立ちあがれないようにしなければなりません。こうした大批判は、それぞれの単位の闘争、批判、改革とむすびつけて、毛沢東思想の偉大な赤旗をすべての陣地にくまなくおし立てなければなりません。

わたしたちの当面しているもつとも重要な任務は、毛主席の教えにしたがい、毛主席のプロレタリア独裁のもとにおける革命についての理論、路線、方針、政策にもとづき、毛主席のさし示した革命闘争の大方向をしっかりとつかみ、毛主席の戦略配置にしっかりとしたがって、革命的な大批判のなかで、それぞれの単位の闘争、批判、改革とむすびつけながら、革命的な大連合を強化、発展させ、革命的三結合を強化、発展させ、それぞれの単位の闘争、批判、改革をりっぱにやりとげ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめることです。

さいきん、毛主席はわれわれに、私心とたたかい、修正主義を批判しなければならぬと指示しました。私心とたたかうとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、自分の頭のなかにある「私」とたたかうことです。修正主義を批判するとは、マルクス・レーニン主

義、毛沢東思想を運用して、修正主義に反対し、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派と闘争することです。この二つの事からは互いにつながっているものであり、闘争によって十分に「私」をとりのぞかなければ、修正主義反対の闘争をいっそうりっぱにやりぬくことはできません。わたしたちは毛主席の偉大な呼びかけにこたえ、「私心とたたかい、修正主義を批判する」ことをかなめにして、軍隊の幹部、地方の幹部、紅衛兵にたいする思想教育を強化しなければなりません。いろいろな学習班を中央につくり、地方につくり、またそれぞれの革命的大衆組織にもつくって、全国を毛沢東思想の大きな学校にしなければなりません。学習のなかで、わたしたちの古い幹部、新しい幹部、革命的小勇将が毛沢東思想を活学活用し、自分の頭のなかにあるさまざまな非プロレタリア思想を改造し、思想・政治水準を高め、人民のために新しい功績を立てるようたがいに援助しなければなりません。

わたしたちは、毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、「革命に力をいれ、生産をうながし」、わたしたちの工業生産の発展を大いに促進し、わたしたちの科学・技術水準を急速に高めなければなりません。

わたしたちは、毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、「軍隊を擁護し人民を愛護する」運動

をくりひろげなければなりません。また、プロレタリア独裁を強化し、内外の階級敵の破壊活動を断固として鎮圧しなければなりません。

プロレタリア文化大革命は、毛沢東思想と広範な人民大衆とが結びつく運動です。いったん毛沢東思想が何億という大衆ににぎられると、それは無敵の物質的な力となり、わたしたちのプロレタリア独裁が永遠に変色しないよう保証することができます。また、わが国の社会主義革命と社会主義建設を毛沢東思想の道に沿って勝利のうちに前進させることができるのです。

プロレタリア革命派は連合し、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげて、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめよう！

全世界のプロレタリアは団結しよう、全世界のプロレタリアは被抑圧人民、被抑圧民族と団結しよう！

アメリカをかしらとする帝国主義を打倒しよう！

ソ連修正主義指導グループを中心とする現代修正主義を打倒しよう！

ベトナム人民の偉大な抗米救国戦争を断固として支持しよう！

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の革命闘争を断固として支持しよう！

世界各国人民の革命闘争を断固として支持しよう！

かならず台湾を解放する！

全国各民族人民の大団結万歳！

中華人民共和国万歳！

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

偉大なマルクス・レーニン主義万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席万歳、万歳、万々歳！

中華人民共和国成立十八周年祝賀レセプションにおける 周恩来総理のあいさつ

(一九六七年九月三十日)

尊敬する来賓のみなさん

同志のみなさん、友人のみなさん

わが国のプロレタリア文化大革命がいちだんと勝利をおさめているとき、わが国のプロレタリア革命派の戦友と各界人民の代表のみなさんが、五大州の多くの国から来られた賓客の方々と一堂に会して、ともに中華人民共和国成立十八周年を祝う機会を得たことに、わたしたちはこのうえない興奮と喜びをおぼえております。

今夜のレセプションには、反帝・反修闘争の前線から来られたシェーフ同志をはじめとするアルバニアの党・政府代表団、反米武装闘争の前線から来られたレ・タン・ギー同志、ホアン・バン・ホアン同志をはじめとするベトナム民主共和国の党・政府代表団とホアン・バン・

ダン同志をはじめとする南ベトナム解放民族戦線の代表団、アフリカの反帝闘争の前線から来られたヌマザレ閣下をはじめとするコンゴ(ブ)全国革命運動と政府の代表団、バブ閣下をはじめとするタンザニア友好代表団とマリのディアロ閣下、わたしたちの親しい隣邦から来られたシャハブディン閣下をはじめとするパキスタン政府友好代表団、各国のマルクス・レーニン主義の兄弟党の代表、その他各国の多くの政治、軍事、経済、文化と民間の友好代表団および各方面の知名人の方々が出席されております。各国の賓客の方々がご出席くださったことは、中国人民にとってこのうえない大きな支持であり、はげましであります。ここで、わたしは、わたしたちの偉大な指導者毛沢東主席とその親密な戦友林彪副主席にかわり、中国共産党、中国政府、中国人民を代表して、みなさんに熱烈な歓迎と心からの感謝の意を申しのべます。

同志のみなさん、友人のみなさん。わたしたちの偉大な祖国は、いますばらしい革命情勢にあります。

ここ一年あまり、毛主席がみずからおこし、指導しているプロレタリア文化大革命は、何億という革命的大衆を真に立ちあがらせました。偉大な毛沢東思想はこれまでになく広範におし広められ、全国人民の精神的様相には大きな変化があらわれました。資本主義の道をあゆむ党

内最大のひとにぎりの実権派はつまみだされ、いま徹底的な批判をうけております。わが国のプロレタリア独裁はいちだんと強化されております。毛主席の偉大な戦略配置にしたがい、毛沢東思想の原則の基礎のうえに、「私心とたたかい、修正主義を批判する」という方針にみちびかれて、いま、全国で革命的大批判、革命的大連合、革命的「三結合」の新たな高まりがまきおこっております。

「革命は歴史の機関車です」。毛主席の「革命に力をいれ、生産をうながそう」という偉大なよびかけは、広範な勤労人民の意気込みを大いにもえあがらせており、わが国の社会主義建設の事業はかならず新たな飛躍的發展をとげるでしょう。

いま、全世界もまたひじょうにすばらしい情勢にあります。

マルクス・レーニン主義の隊列は發展し、強大になっております。英雄的な人民のアルバニアは反修闘争の最前線に立ち、ヨーロッパの偉大な社会主義の明るいともしびとなっております。世界人民、とりわけアジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の革命運動も發展しております。ますます多くの国ぐに、人民の武装闘争の烈火がもえあがっております。英雄的なベトナム人民の抗米救国戦争はつきつきと輝かしい勝利をおさめております。アラブ・アフリカ

地区の反帝の波はひきつづき高まっております。アメリカ国内では、かつてない大規模な黒人の武装抗暴闘争が爆発しております。アメリカ帝国主義は内外の困難にあえぎ、ますます苦しい立場におこまれております。現代修正主義者の、裏切り者の正体は日とともに暴露され、かれらもやはりにつちもさつちもいなくなっております。かれらはいちだんと結託をつよめる一方、仲間をかきあつめて、新たな反中国の逆流をまきおこし、各国人民の革命闘争を分断し、撲滅して、そのひん死の運命を救おうとたくらんでおります。これらの先生方は、まったくらぬたぬきの皮算用をしているのです。七億の中国人民はプロレタリア文化大革命をあくまでやりぬく決意でおります。アジア、アフリカ、ラテンアメリカと全世界人民の革命闘争の歴史の流れは、どのような力もおしとどめることはできません。アメリカ帝国主義と現代修正主義の反中国、反共、反人民、反革命の陰謀は、石をもちあげて自分の足を打つようなもので、かれらの失敗をはやめるだけです。

同志のみなさん、友人のみなさん。わたしたちの偉大な指導者毛主席は、「努力奮闘して、社会主義の強大な国家を建設するとともに、世界の抑圧され、搾取されている広範な人民を援助して、われわれの負うべき国際主義の偉大な義務をはたそう」とわれわれに教えておりま

す。今回のプロレタリア文化大革命をつうじて、無敵の毛沢東思想で武装された中国人民は、かならずわが国の対外政策の総路線をいっそうりっぱにつらぬき、わたしたちの国際主義の偉大な義務をいっそう効果的に負うことができるでしょう。わたしたちほどのように大きな民族の犠牲をはらっても、ベトナム人民の抗米救国戦争が最後の勝利をかちとるまで全力をあげて支援する決意であります。わたしたちはアジア、アフリカ、ラテンアメリカならびに世界各国人民の革命闘争を断固支持します。わたしたちはかならず全世界のマルクス・レーニン主義者と団結し、全世界の革命的な人民と団結し、すべての被抑圧人民、被抑圧民族と団結し、団結できるすべての反帝の力と団結して、アメリカ帝国主義に反対するもつとも広範な統一戦線をつくり、アメリカ帝国主義とその手先に反対する闘争を最後までやりぬき、現代修正主義に反対する闘争を最後までやりぬき、世界人民と国際プロレタリア階級の革命的事業をひきつづき前進させるでしょう。

では、みなさん、

わが国各民族人民の大団結のために、

全世界人民の大団結のために、

に、
英雄的なベトナム人民と各国人民の、アメリカ帝国主義に反対する闘争の新たな勝利のため

アジア、アフリカ、ラテンアメリカと世界各国人民の革命解放事業の新たな勝利のために、

わが国のプロレタリア文化大革命の新たな勝利のために、

偉大な、無敵の毛沢東思想のために、

わたしたちの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席の永遠の長寿のために、

アルバニア、コンゴ（ブ）、ベトナム、パキスタン、タンザニア、マリ、その他各国の賓客の方々のご健康のために、

各国の同志のみなさん、友人のみなさんのご健康のために、

各国の使節の方々とそのご夫人たちのご健康のために、

ここにおられるすべての同胞のみなさん、同志のみなさんのご健康のために、
乾杯しましょう。

プロレタリア独裁のもとでの 文化大革命の勝利万歳

中華人民共和国成立十八周年を祝って

『人民日報』、『紅旗』、『解放軍報』編集部

毛沢東思想の輝かしい大道を、プロレタリア文化大革命のはげしい東風にのって前進するなかで、われわれは勝利のうちに中華人民共和国成立十八周年を迎えている。

この盛大な祝日をまえにして、われわれの偉大な指導者毛主席が華北、中南、華東の各地区を視察したという吉報が全国の津々浦々に伝えられ、いく億の革命的大衆にきわめて大きな、新たな励ましをあたえた。

われわれは世界各国から来られた同志のみなさん、友人のみなさんを心から歓迎する。この人たちはわれわれとともに、文化大革命の高まりのなかで、われわれの国慶節をたのしくすごされることであろう。

中華人民共和国の十八年は、プロレタリア階級とブルジョア階級の二つの大きな敵対的階級が生死をかけてたたかってきた十八年であり、社会主義の道が資本主義の道にうち勝ってきた十八年であり、プロレタリア独裁が日一日と強化され、うち固められてきた十八年である。

毛主席がさし示した方向にしたがい、この十八年間に、広範な勤労人民の共同努力、共同の奮闘をへて、われわれは社会主義の道できわめて輝かしい成果をおさめてきた。

社会主義制度はわが国の生産力の飛躍的な発展をうながした。毛主席がみずから定めた社会主義建設の総路線にみちびかれて、工農業生産と各種の建設事業に全面的な大躍進があらわれた。われわれの祖国は貧困で立ちおくれた、災難にみたされた国家から、一躍して富み栄え、日ごとに向上発展する社会主義の強国となった。

解放いらい、われわれはいつぐブルジョア階級の気違いじみた攻撃を撃退し、つぎつぎと偉大な勝利をおさめてきた。われわれは「三反」（国家機関の勤務員の汚職、浪費、官僚主義に反対する）、「五反」（資本家の贈賄、脱税、国家資財の窃取、手間ぬきと材料のごまかし、国家の経済情報の窃取に反対する）運動と反右派闘争の勝利をかちとり、党内の右翼日和見主義分子に反対する闘争の勝利をかちとり、都市と農村における社会主義教育運動の勝利をかち

とった。思想・文化戦線でも、われわれはブルジョア階級にたいしてくりかえし批判をおこなってきた。

この十八年らい、わが国人民は帝国主義、現代修正主義、各国反動派にたいして英雄的な闘争をくりひろげてきた。抗美援朝戦争では、われわれは朝鮮人民とともに、アメリカ帝国主義にみじめな敗北をなめさせた。われわれはベトナム人民はじめ各国人民の革命闘争を支援するなかで、自己の国際主義の貢献を果たしてきた。われわれは世界各国のマルクス・レーニン主義者とともに、ソ連現代修正主義裏切り者集団を中心とする現代修正主義を徹底的に暴露し、それと断固としてたたかい、国際共産主義運動が新たな段階で勝利のうちに発展することをうながした。

十八年らいの歴史は、毛沢東思想こそ中国を救うことができるということをあますところなく立証している。毛沢東思想の偉大な革命の赤旗のもとに、あくまで社会主義の道をあゆみ、あくまでプロレタリア革命とプロレタリア独裁をおこなってきた。これこそ、われわれがあゆんできた戦いの道であり、これこそ、われわれの方向である。

建国らしいの輝かしい歴史のなかで、特筆大書しなければならないのは、われわれがいまおしすすめている、毛主席がみずからおこし、みずから指導している史上に前例のないプロレタリア文化大革命である。

わが国の広範な労働者、農民、兵士、革命的幹部、革命的知識人は、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげて、プロレタリア文化大革命の政治の舞台に登場し、わずか一年あまりのあいだに、世界をゆさぶる奇跡をつくりだした。

レーニンはずぎのようにのべている。「革命は被抑圧者と被搾取者の盛大なお祭りである。人民大衆はいかなる時も、革命の時期ほど新しい社会秩序の積極的な創造者としての身分であらわれることはない。こうした時期に、人民は、凡俗な、漸進的な、せまい目からみると、想像もできないような奇跡をつくりだすことができる。」わが国のプロレタリア文化大革命の発展もまさにこのとおりである。

全国のプロレタリア革命派と広範な人民は、毛主席の「司令部を砲撃しよう」という偉大な呼びかけにこたえて立ちあがり、中国のフルシチョフをかしらとするブルジョア司令部に猛烈な攻撃の火ぶたをきった。毛主席をはじめとするプロレタリア司令部の指導のもとに、革命的大衆運動は、万雷のとどろく勢いで、反革命的復活をたくらむブルジョア司令部を粉碎し、資

本主義の道をあゆむ党内最大のひとにぎりの実権派を徹底的にたたきのめした。かれらがおしすすめてきた一連の反革命修正主義路線は、完全に破産してしまつたのである。

このプロレタリア文化大革命の大きなあらしは、何億という大衆の魂の奥底をばげしくゆり動かした。偉大なマルクス・レーニン主義、偉大な毛沢東思想は空前の広がりをもてた。全国人民の思想の革命化は新たな高い段階にたつた。広範な大衆は闘争のなかで毛主席の著作を活学活用し、ブルジョア階級の世界観を批判し、プロレタリア独裁のもとでもなお革命をおこなわなければならないこと、だれにたいして革命をおこない、どのように革命をおこない、どのように資本主義の復活を防ぐかということなどの大きな道理を知つた。

何百万何千万という革命的青少年、革命的紅衛兵は、この大革命のなかで、先頭に立つて敵陣に突入し、くりかえし階級闘争の鍛練をうけるとともに、すぐれた貢献をした。プロレタリア革命事業の後継者がいまだいに成長してきている。プロレタリア階級の新しい革命的中堅分子が大量にあらわれつつある。多くの革命的幹部は、プロレタリア文化大革命のきびしい試験をへて、プロレタリア階級としての自覚を大いに高め、大衆との関係を大いに改善し、いま社会主義事業のために新たな成果をあげている。

偉大な中国人民解放軍は、われわれの偉大な指導者毛主席がみずからつくり、指導している軍隊である。人民解放軍は、林彪同志の直接の指揮のもとに、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、人民大衆と緊密に結びついている。人民解放軍は国を守り、プロレタリア文化大革命を守り、支持する闘争のなかで、また工農業生産の発展を促進するなかで、新たな、輝かしい歴史的功績をうち立てるとともに、もつとも大きな、もつともよい鍛練をうけた。かれらはその名に恥じないプロレタリア独裁の堅固な支柱であり、世界に比類のない人民軍隊である。

プロレタリア文化大革命でほとぼしり出た巨大な精神的力は、社会主義建設の発展をうながす巨大な物質的力に転化している。わが国最初の水素爆弾の実験は、われわれの科学技術と国防建設が新たな水準に到達したことを示している。

林彪同志は、このプロレタリア文化大革命は「損失がもつとも、もつとも、もつとも小さく、かちとつた成果はもつとも、もつとも、もつとも大きなものである」と指摘している。これはひじょうにすぐれた概括である。

われわれの国家は今日ほど統一されたことはなく、わが国の各民族は今日ほど団結したことはなく、われわれの国防は今日ほど強化されたことはない。

これは、プロレタリア独裁の条件のもとでひきつづき革命をおこなうことについての毛主席の理論の偉大な勝利であり、毛主席のプロレタリア革命路線の偉大な勝利であり、毛沢東思想の偉大な勝利であり、毛主席によるマルクス・レーニン主義の発展の偉大な勝利である。

プロレタリア文化大革命がわが国におこったのは、偶然のことではない。これはプロレタリア独裁の条件のもとで、階級闘争が深化し、発展した必然的な段階であり、毛主席が長年にわたって社会主義社会の階級矛盾と階級闘争の法則を研究し、総括してきた偉大な成果である。

はやくも十八年前、全国的な勝利をかちとる前夜、毛主席は全党にたいして、「この勝利をかちとるには、もはやながい時間を必要としないし、大きな精力をついやす必要もない。だが、この勝利をかためることは、ながい時間をかけ、大きな精力をついやさなければならぬ仕事である」、「全国的な勝利をかちとること、これは万里の遠征の第一歩をふみだしたことにすぎない」と指摘している。

ここで、毛主席はわれわれにきわめて重要なマルクス・レーニン主義の原理の一つを解明している。プロレタリア階級による権力の獲得は、絶対に革命の終わりを意味するものでなく、それは革命の始まりなのである。プロレタリア独裁はひじょうにながい歴史的時期である。プ

ロレタリア階級は、権力を奪取してからも、なおブルジョア階級や資本主義勢力と長期にわたって、くりかえし闘争し、わたり合わなければならない。大きな努力をはらって、社会主義革命を前へおしすすめ、それを最後までやりぬかなければならないのである。

社会主義社会の階級闘争の法則がわれわれに教えているように、搾取階級は失敗したのちも、失った天国を復活させようとたえず夢みている。かれらは思想の分野でなおかなり大きな勢力を占めており、数多くの陣地を支配している。都市と農村における小ブルジョア階級の自然発生的勢力と習慣の力も、集団化が実現されたからといって、すぐに完全になくなるものではない。それどころか、新しいブルジョア分子がたえず生まれてくるのである。同時に、国際資本主義勢力は、さまざまなルートをつうじ、あらゆる手口をつかって、社会主義国を「平和的転化」させようとしている。レーニンがいつているように、「プロレタリア独裁とは、比較的強大な敵、すなわちブルジョア階級にたいする新しい階級のもっとも何をもおそれぬ、もっとも容赦のない戦闘である。ブルジョア階級の反抗は、かれらが打倒される（たとえ一国内であれ）ことによって十倍にも狂暴になる。かれらの強大さは、国際資本の力、かれらのもつさまざまな国際的連係の力と強固さにあるばかりでなく、習慣の力、小規模生産の力にもある。な

せなら、小規模生産は残念ながら、いまなお、この世におびただしくのこっていて、この小規模生産が資本主義とブルジョア階級を、たえず、毎日、毎時間、自然発生的に、大規模に生み出してゐるからである。すべてこういう理由からして、プロレタリア独裁は必要である。そして、忍耐、規律、剛毅、不屈、意思の統一を必要とする、長期にわたる、ねばり強い、死にもぐるいの生死をかけたたたかひがなければ、ブルジョア階級に勝つことはできないのである」。

毛主席はくりかえしわれわれにこう教えている。生産手段の所有制の社会主義的改造が基本的に完成したあとでも、階級闘争はまだ終わつてはいない。「プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの階級闘争、各政治勢力のあいだの階級闘争、プロレタリア階級とブルジョア階級のあいだのイデオロギー面での階級闘争は、なお長期にわたる、曲りくねったたたかひであり、ときにはひじょうに激しいものでさえある。プロレタリア階級は自己の世界観にもとづいて世界を改造しようとし、ブルジョア階級も自己の世界観にもとづいて世界を改造しようとする。この面では、社会主義と資本主義のあいだの、どちらが勝ち、どちらが負けるかの問題は、まだほんとうには解決されていない。」もし、こうした情勢にたいして、認識が足りな

ったり、まったく認識していなかったりしていたなら、大きな誤りを犯すことになるであらう。

中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派は、ブルジョア思想体系のもつとも頑固な擁護者であり、もつとも集中的な代表者である。かれらは、かすめとつた権力を利用して、懸命に資本主義を鼓吹し、プロレタリア独裁をブルジョア独裁に変えようとし、おおっぴらな手段と隠れた手段をつかつて、資本主義の復活をはかってきた。われわれがあらゆる搾取階級の思想体系をうちこわそうとすれば、どうしてもこうしたひとにぎりのブルジョア階級の代表者と敵対的な衝突をおこさないわけにはいかない。そこで、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派をうち倒すことがプロレタリア文化大革命の主要な任務となつたのである。われわれとかれらの闘争は、プロレタリア階級とブルジョア階級とのどちらがどちらに勝つかという生死をかけた格闘である。

現代のもつとも偉大なマルクス・レーニン主義者毛沢東同志は、世界の、またわが国のプロレタリア独裁の歴史的経験を総括し、とくにソ連にあらわれた資本主義の全面的復活の重大な教訓を研究して、社会主義社会の階級闘争の法則を深く解明し、プロレタリア文化大革命につ

いての偉大な理論を創造的にうちだし、しかも人類史上はじめてのプロレタリア文化大革命という偉大な闘争をみずからおこし、指導した。こうして、プロレタリア独裁の条件のもとでひきつづき革命をおこなうというもつとも重要な根本問題をつかみ、解決し、プロレタリア独裁の時期の階級闘争に関するマルクス・レーニン主義の観点を大きく、創造的に発展させ、プロレタリア独裁の観点を大きく発展させて、マルクス・レーニン主義をまったく新しい段階、すなわち毛沢東思想の段階にまで発展させたのである。

雷鳴が大地にとどろきわたった。われわれの偉大な指導者毛主席のプロレタリア独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての輝かしい理論は、ひとたび何億という革命的大衆と結びつくと、たちまち中国という大地で、かつてない強大なプロレタリア階級の革命の力に発展した。この無敵の力は、反革命的な資本主義勢力をより徹底的にたたきつぶし、われわれの歴史の進展過程をやめて、国際共産主義運動の歴史に新しい紀元をきりひらいたのである。

われわれがすでにかちとった勝利は偉大なものである。しかし、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬくために、われわれは今後いっそう努力し、奮闘しなければならない。

われわれの今後の戦闘任務はつぎのとおりである。

毛沢東思想の偉大な赤旗をいっそう高くかかげ、革命的大批判をより広く、より深くくりひろげ、火力を集中し、目標をしぼり、政治、思想、理論の各面から中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内最大のひとにぎりの実権派を徹底的に批判し、くさいものになるまで批判して、かれらの復活をたくらむあらゆる陰謀奸計を永遠に破産させること。

大衆を十分に立ちあがらせ、革命的大批判と結びつけて、それぞれの単位の闘争、批判、改革をりっぱにやりとげ、毛主席の革命路線にしたがって、すべての分野で徹底的な改革をおこない、毛沢東思想にすべての陣地を占領させること。

毛主席はわれわれにこう教えている。「労働者階級の内部には、根本的な利害の衝突はない。プロレタリア独裁のもとにある労働者階級の内部には、どうしても両立しない二つの大きな組織に分裂しなければならない理由はなおさらない。」

毛主席は労働者階級にたいして重要な指示をおこなったほかに、またわれわれにこう教えている。「革命的紅衛兵と革命的學生組織は革命的大連合を実現しなければならぬ。二派がともに革命的大衆組織であるかぎり、革命的原則のもとに革命的大連合を実現しなければならぬ。」

われわれは毛主席の教えにしたがい、毛沢東思想の原則の基礎のうえに、革命的大連合と革命的「三結合」を発展させ、うち固めて、革命的団結を強化すること。

各級の革命委員会をうち固め、あるいはうち立て、毛主席の原則にもとづいて革命的隊列の内部の矛盾を正しく処理し、幹部に正しく対処し、革命的幹部を大胆に使用し、新しい幹部の成長を援助するよう努力すること。

熱烈な軍隊を擁護し人民を愛護する運動をより大規模にくりひろげるとともに、この運動を持続的に深くつこんでおしすすめること。

「革命に力をいれ、生産をうながそう」という偉大な方針をいっそうつらぬき、仕事時間外に革命をやり、地元で革命をやり、儉約して革命をやることを堅持し、工農業生産の発展を大いにうながすこと。

人民解放軍の全指揮員・戦闘員は、左派の支持、工業の支援、農業の支援と軍事管理、軍事訓練の活動をいっそうりっぱにおこなうと同時に、高い警戒心をもち、戦争にたいする備えを強化し、国防を固め、プロレタリア文化大革命が勝利のうちにおこなわれるよう保証し、ア

リカをかしらとする帝国主義の侵略をいつでも粉砕できるよう準備し、わが国の領土台湾を解放すること。

大衆に依拠して、プロレタリア独裁を一段とうち固め、強化し、内外の階級敵のあらゆる破壊活動を断固として鎮圧し、アメリカ・蒋介石の特務、ソ修の特務、日本の特務のさまざまなスパイ活動を断固として鎮圧すること。

大切なのはうまく学習することにある。こうした一連の偉大な任務を達成するには、闘争のなかで毛主席の著作を活学活用し、革命隊列の思想建設を強化しなければならない。

マルクス、エンゲルスは『共産党宣言』のなかで、「共産主義革命とは、伝統的な所有制の關係ともっとも徹底的に絶縁することである。したがって、その発展過程で伝統的な諸思想ともっとも徹底的に絶縁するのは、なんらおどろくにあたらない」と指摘している。

搾取階級の伝統的觀念は利己主義である。こうした利己主義の影響は、数千年にわたって深く根をおろしてきている。すべてのプロレタリア革命派と広範な革命的大衆は意識的に自己批判の武器をとり、マルクス・レーニン主義を運用し、毛沢東思想を運用して、ブルジョア階級と小ブルジョア階級の思想にうち勝ち、自分の頭のなかにある「私」と勇敢にたもとをわかつ

なければならぬ。こうしてはじめて、われわれの隊列を高い革命性、科学性、組織・規律性をもったプロレタリア文化大革命の大軍にすぎあげることができるのである。

われわれの幹部の大多数はよい幹部、比較的よい幹部である。誤りを犯した革命的幹部にたいしては、われわれは毛主席の「前の誤りを後のいましめとし、病をなおして人を救う」という伝統的政策にしたがつて、かれらに辛抱づよい援助をおこない、誤りをあらためる機会と時間をあたえ、かれらが誤りをあらためて、プロレタリア階級の革命隊列に追いついていけるようにしなければならぬ。

プロレタリア文化大革命のなかで、大勢の新しい若い幹部があらわれた。こうした新しい隊列をつらばに教育し、たえずかれらに毛沢東思想をそそぎこみ、かれらが永遠に確固とした正しい政治的方向をたもち、永遠に困苦をいとわぬ質素な勤労人民の特色をたもち、永遠に人民大衆との緊密な結びつきをたもつようすることは、われわれの祖国の前途と命運にかかわる大事である。

われわれの偉大な指導者毛主席と毛主席をはじめとする党中央のプロレタリア司令部の指導、毛沢東思想の指導は、われわれがあらゆる勝利をかちとるうえでの根本的な保証である。

われわれは、かならず毛主席に永遠に忠実であり、毛沢東思想に永遠に忠実であり、毛主席のプロレタリア革命路線に永遠に忠実であり、毛主席をはじめとするプロレタリア司令部の指導を断固として擁護しなければならない。

今後一年間の階級闘争は依然としてひじょうにはげしく、複雑であり、われわれは階級闘争のはげしい嵐のなかを前進していくことをみておかなければならない。右の面からあるいは極「左」の面から、毛主席をはじめとする党中央のプロレタリア司令部をゆさぶり、ひそかに挑発・離間や流言・中傷をおこなっているひとにぎりの悪党や、歴史の車輪を逆転させようと夢みる反革命勢力にたいしては、かれらを暴露し、かれらに断固たる反撃をくわえなければならぬ。

わが国のプロレタリア文化大革命の勝利は、世界の被抑圧民族と被抑圧人民の革命闘争をこのうえなく励ましており、世界の革命的人民から熱情のこもった称賛と支持をうけている。アメリカをかしらとする帝国主義、ソ連現代修正主義裏切り者集団を中心とする現代修正主義および内外のすべての反動派は、かれらの反革命の臭覚を働かせて、最初から中国のプロレタリア文化大革命がかれらにとって最大の脅威になることをかぎつけていた。そこで、かれらは内

心の極度の恐怖をおおいかくすために、やっきになってわれわれのプロレタリア文化大革命を中傷し、ののしってきたのである。だが、かれらのこうした中傷はみな、つきからつきへとシヤボン玉のようにつぶれてしまった。

毛主席はやくからつきのように指摘している。「敵に反対されるのは悪いことではなく、よいことである」、「もしも敵がやっきになってわれわれに反対し、われわれのことをまったくでたらめであるとか、なにもかもまちがっているというなら、それはいっそうよいことであり、われわれが敵とはっきりと一線を画していることを証明しているばかりでなく、われわれの仕事がひじょうに成績をあげていることを証明している。」

死にかけたハエにブンブンうならせておこう。われわれはいっそう確固としてわが道をすすむであらう。

毛沢東思想の偉大な赤旗をいっそう高くかかげ、確固としてゆるぐことなく、あふれるような自信をもって、プロレタリア文化大革命の全面的、徹底的な勝利をかちとらう。

われわれの偉大な社会主義の祖国万歳！

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

偉大なマルクス・レーニン主義万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席万歳！ 万々歳！

(一九六七年十月一日)

毛沢東思想を大いにうち立てる偉大な革命

『紅旗』社説

わが国のプロレタリア文化大革命はいま、毛沢東思想の輝かしい道に沿って勝利のうちに前進している。

われわれの偉大な指導者毛主席は、最近、私心とたたかい、修正主義を批判しなければならぬ、とわれわれに指示した。これは、毛主席がわれわれのために概括した、プロレタリア文化大革命を指導する基本綱領である。

林彪同志は、「私心とたたかうとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、自分の頭のなかにある『私』とたたかうことである。修正主義を批判するとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、修正主義に反対し、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派と闘争することである」とのべている。

プロレタリア文化大革命は、人びとの魂にふれる大革命である。この大革命は、ほかでもなく、われわれのプロレタリア独裁をうち固め、強化し、社会主義制度をうち固め、発展させるために、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派をうち倒し、ブルジョア思想を大いにうち破り、毛沢東思想を大いにうちたて、人びとの世界観を改造し、修正主義の根をとりのぞこうとするものである。

毛主席がうち出した「私心とたたかい、修正主義を批判する」という偉大な綱領を真剣に学習し、深く理解し、またプロレタリア文化大革命の基本目的を正しく認識してはじめて、プロレタリア文化大革命の深遠な意義をはっきりと理解することができるのであり、プロレタリア独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての毛主席の理論、路線、方針、政策を体得し、把握して、盲目性をへらし、自覚性を強め、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬくことができるのである。

プロレタリア独裁はきわめて長期にわたる歴史的時期である。この歴史的時期には、プロレタリア階級とブルジョア階級という二つの階級、社会主義と資本主義という二つの道のはげしい闘争がみちている。

プロレタリア階級が権力を奪取し、搾取階級の所有制をくつがえすには、かならずしも長い

時間を必要としない。しかし、搾取階級が数千年にわたってのこしてきた古い思想、古い文化、古い風俗、古い習慣はひじょうに長い時間をかけてはじめてなくすることができるのである。われわれは地主・ブルジョア階級の財産を没収したが、かれらの反動思想を没収することはできない。かれらは思想の分野でいまなおかなりの勢力を占めており、一定の期間内はプロレタリア階級より強大ですらある。

搾取階級の思想体系の核心は利己主義であり、「私」である。数千年にわたる私有制度によつて、このような利己主義の影響はひじょうに根強いものをもっている。古い社会制度は消滅したが、われわれの偉大な指導者毛主席がわれわれに教えているように、「古い制度を反映する古い思想の残りかすは、なんといつても長期にわたって人びとの頭にとどまり、そうやすやすと出ていくものではない」のである。ブルジョア階級は、こうしたものを利用して、大衆をむしばみ、若い世代をむしばみ、人心を征服して、プロレタリア階級とたたかおうとするのである。

すべての階級闘争はみな政治闘争である。思想の分野での階級闘争も結局は権力を奪取し、権力をうち固めるためのものである。中国の封建社会の支配階級は、孔孟の道をもつてかれら

の権力をうち固めた。ブルジョア階級も資本主義の思想体系をもつてかれらの権力をうち固めようとした。地主・ブルジョア階級の権力がうち倒されてからも、かれらは必然的に、思想の陣地で占めているある種の優位を必死に利用して、プロレタリア独裁を破壊し、資本主義の復活をたくらんでくる。

毛主席はつぎのようなままたく正しい指摘をおこなっている。「わが国では、社会主義と資本主義とのあいだの、どちらが勝ち、どちらが負けるかという、イデオロギー面での闘争は、なおかなりながい期間をかけなければ解決することができない。それは、ブルジョア階級や旧社会からきた知識人の影響がなお長期にわたってわが国に存在し、かれらの階級としてのイデオロギーもなお長期にわたってわが国に存在するからである。こうした情勢について認識がたりになかったり、ぜんぜん認識していなかったりするならば、ひじょうに大きなあやまりをおかすことになり、必要な思想闘争をおろそかにすることになる。」

社会の発展にたいする思想的要因の大きな能動的作用を過小評価してはならない。ふるい思想はふるい経済的土台に奉仕するものであって、反動階級の要求を反映し、社会の発展に阻害作用をおこす。新しい思想は、新しい経済的土台に奉仕するものであって、先進階級の要求を

反映し、社会の発展に促進的作用、加速的作用をおこす。

エンゲルスは晩年にこう語っている。かつてマルクスとかれは主として史的観念論に反対するために、歴史の発展にたいする経済的要因の決定的作用についてかなりの説明をおこなった。その後一部のものがかれらの原理をねじまげ、あたかも経済的要因が唯一の決定的要因であるかのようにいった。これはデタラメもはなはだしい、と。エンゲルスは、「政治、法律、哲学、宗教、文学、芸術などの発展は経済の発展を基礎にしている。しかし、それらはまた互いに影響しあっており、しかも経済の土台にまでその影響をおよぼしている」と指摘している。

現代におけるもっとも偉大なプロレタリア階級の天才的思想家毛沢東同志は、徹底した唯物弁証法を運用して、歴史の発展過程における思想的要因の能動的作用について、はじめてもっとも深刻な、もっともすぐれた説明をおこなったのである。

毛主席は、「一定の文化（イデオロギーとしての文化）は一定の社会の政治と経済の反映であり、さらに一定の社会の政治と経済に大きな影響をあたえ作用をおよぼす。そして経済が基礎であり、政治は経済の集中的表現である」とのべている。これは史的唯物論の問題で毛主席

がおこなったきわめて重要な概括である。

毛主席は、その輝かしい著作『矛盾論』のなかで、精神的なものの作用をひじょうに重視している。毛主席はこういっている。「生産力、実践、経済的土台は、一般的には主要な決定的な作用をするものとしてあらわれるのであって、この点をみとめないものは唯物論者ではない。しかし、生産関係、理論、上部構造といったこれらの側面も、一定の条件のもとでは、逆に、主要な決定的な作用をするものとしてあらわれるのであって、この点もまたみとめなければならぬ。」「われわれは、歴史の発展せんたいのなかでは、物質的なものが精神的なものを決定し、社会的存在が社会的意識を決定することをみとめるが、同時に、精神的なものの反作用、社会的意識の社会的存在にたいする反作用、上部構造の経済的土台にたいする反作用をみとめるし、またみとめなければならない。このことは唯物論にそむくことではなく、これこそ機械的唯物論におちいらず、弁証法的唯物論を堅持するものである。」「

毛主席が数十年前に提起したこれらの重要な原理は、われわれがこんにちプロレタリア独裁のもとでひきつづき革命闘争をおこなっていくための強力な思想的武器である。

中華人民共和国成立後十数年らい、わが党は毛主席の指導のもとに、思想の分野でブルジョ

ア階級にたいしてたびたび批判と闘争をくりひろげ、偉大な勝利をおさめてきた。階級闘争の深化にともない、ブルジョア階級は、かれらがみずから陣頭に立ってプロレタリア階級から権力を奪取することは容易でないことをますます感じるようになった。そこで、かれらはその罪悪的な目的をとげるために、わが党内に代理人をみつけ、育成することがいつそう必要になった。いまでは、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派こそ、資本主義復活の勢力の党内における代理人であったことが、だれの目にもあきらかになっている。かれらはプロレタリア独裁をブルジョア独裁に変えるために、あらゆる手をつかってイデオロギーをつかみ、資本主義復活のために露払いをつとめる搾取階級の思想と文化を懸命に鼓吹し、擁護し、ブルジョア階級の反動的學術「権威者」を必死に庇護してきた。

△清宮秘史の批判から△海瑞の免官の批判にいたるこの長期のはげしい階級闘争が、このことをあますところなく立証している。

毛主席はその一連の偉大な著作のなかで、またみずから主宰して制定した『農村社会主義教育運動における当面のいくつかの問題』、中国共産党中央委員会の一九六六年五月十六日の『通知』、『中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定』のなかで、プ

ロレタリア独裁と社会主義制度をうち固めるには、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派を批判し、うち倒さなければならぬ、と明確に規定している。毛主席はさらに、大衆を思いきって立ちあがらせ、広範な人民大衆の自覚を高めて、ブルジョア階級の反動的學術「権威者」を徹底的に暴露し、批判し、學術界、教育界、新聞界、文学・芸術界、出版界のブルジョア反動思想を暴露し、批判して、これらの文化の分野における指導権を奪取しなければならぬ、とわれわれに指摘している。

毛主席がうちだしたプロレタリア文化大革命の偉大な理論と毛主席がみずからおこし、指導しているこのプロレタリア文化大革命の偉大な実践は、プロレタリア独裁のもとでひきつづき革命をおこなうというこの根本問題を解決して、国際共産主義運動のために、社会主義革命を最後までやりぬき、社会主義から共産主義に移行する航路をきりひらき、マルクス・レーニン主義の発展史にまったく新しい偉大な里程碑をうちたてた。

毛主席のプロレタリア革命路線にみちびかれ、この一年余にわたって嵐のような勢いでくりひろげられてきたプロレタリア文化大革命は、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内最大のひとにぎりの実権派を暴露し、うち倒し、ブルジョア司令部をたたきつ

ぶして、すでに偉大な勝利をおさめている。その結果、プロレタリア独裁の機構内にひそんでいた最大の禍いがとりのぞかれ、搾取階級のイデオロギーを徹底的に批判するうえでの最大の障害物がとりのぞかれた。

当面、われわれは毛主席の「私心とたたかい、修正主義を批判する」という偉大な呼びかけに断固としてこたえ、この偉大な方針にみちびかれて、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬかなければならない。

われわれはすでにブルジョア司令部をたたきつぶしている。この勝利をうち固め、発展させるために、われわれはなお政治、思想、理論の面からこれらのブルジョア階級の代表者を深く、徹底的に批判し、うち倒し、くさいものになるまで批判しなければならない。それと同時に、革命的大批判をそれぞれの単位の闘争、批判、改革としっかりと結びつけ、資本主義の道をあゆむ党内最大のひとにぎりの実権派が政治、経済、思想、文化の各分野でおしすすめた一連の修正主義的なものを徹底的にうちこわし、その反動的な影響を一掃し、社会主義制度に適応せず、資本主義の復活に有利なものをすべて改めなければならない。そうすれば、修正主義を識別し、これに抵抗する広範な大衆の力がいっそう強まり、修正主義に反対し、修正主義を防止するうえでの堅固な大衆的基礎ができるようになるのである。

修正主義をよりよく批判するために、また自分の世界観を改造するためには、「私」と思い

切ってたたかわなければならない。林彪同志が指摘しているように、「革命をやるからには、自分にたいする革命をやらなければならない。自分にたいする革命をやらなければ、この革命はうまくいかないのである」。プロレタリア文化大革命において、プロレタリア階級とブルジョア階級の二つの思想、二つの世界観の闘争は、現在ほど先鋭化し、激化したことはなく、一人ひとりの魂にこれほど深くふれたことはなかった。すべてのプロレタリア革命派と広範な革命的大衆は、毛主席の著作をいっそうしっかりと活学活用し、「私」をうち破り、「公」をうち立て、すこしも利己的でなく、ひたすら他の人につくす精神、すこしも私利私欲のない精神をしっかりと立ち立てなければならない。毛主席がわれわれに教えているように、「この点から出発すれば、大いに人民に役だつ人となることができる。人の能力には大小のちがいがあ

るが、この精神さえ持っていれば、それは高尚な人であり、純粹な人であり、道徳的な人であり、低級な趣味からぬけ出した人であり、人民にとって有益な人である」。このようにしてはじめて、修正主義の生まれる条件を断ち、修正主義の根をとりのぞくことができるのである。

これは国家の命運と世界の前途にかかわる大事であり、百年、千年、万年の大計である。

十月革命後、レーニンはつぎのようにのべたことがある。「われわれは、われわれより何倍も何倍も強い世界のブルジョア階級とたたかう歴史的時期にある。このようなたたかひの時期に、われわれは革命的建設をまもらなければならぬし、軍事の分野で、それ以上に思想の分野、教育の分野で、ブルジョア階級とたたかわなければならぬ。労働者階級は政治的自由のための闘争のなかで、何十年もの長いあいだに習慣、ならわし、信念を養ってきたが、われわれはこれらすべての習慣、ならわし、思想を、全勤労者にたいする教育の道具にしなければならぬ。」

林彪同志はつぎのように指摘している。「われわれは毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、『私心とたたかひ、修正主義を批判する』ことをかなめにして、軍隊の幹部、地方の幹部、紅衛兵にたいする思想教育を強化しなければならない。いろいろな学習班を中央につくり、地方につくり、またそれぞれの革命的な大衆組織にもつくって、全国を毛沢東思想の大きな学校にしなければならぬ。学習のなかで、われわれの古い幹部、新しい幹部、革命的小勇將が毛沢東思想を活学活用し、自分の頭のなかにあるさまざまの非プロレタリア思想を改造し、思想・政

治水準を高め、人民のために新しい功績を立てるようたがいに援助しなければならない。」

革命的隊伍の思想建設のなかで、幹部にたいする教育はひじょうに重要な側面である。

プロレタリア文化大革命は、ある意味からいえば、幹部を教育する運動である。大多数の革命的幹部はプロレタリア文化大革命のなかで、ひじょうによい鍛練をうけた。われわれは団結できるすべての幹部と団結しなければならない。さまざまの誤りを犯した幹部にたいしては、一様に教育をおこなわなければならない。誤りを犯した幹部は、自分にたいする大衆の厳粛な批判を、自分にたいするもっともよい援助とみなすべきであり、階級闘争の実践と結びつけ、自分の経験・教訓と結びつけて、毛主席の著作を活学活用し、真剣に誤りを改め、プロレタリア独裁のもとにおける革命についての認識を深め、革命的な批判とそれぞれの単位の闘争、批判、改革に自分の力を寄与しなければならない。

革命的な青少年と紅衛兵にたいする思想教育を強化し、かれらに毛沢東思想をそそぎこみ、かれらが闘争のなかで、健全に成長していくよう援助しなければならない。

革命的な青少年と紅衛兵は、プロレタリア文化大革命のなかで前衛的な役割を果たした。しかし、世界観の改造は、長期にわたる、困難にみちた過程である。したがって、かならず自分

に正しく対処しなければならず、毛主席の著作の活学活用をとくに重視し、プロレタリア文化大革命の嵐のなかで、また労働者・農民・兵士に学ぶ過程で、自分をプロレタリア革命事業の信頼できる後継者に鍛えあげるよう努力しなければならない。

エンゲルスはふるい伝統について語った際、つぎのようにのべたことがある。「伝統はひじょうに大きな阻止力であり、歴史の惰性の力であるが、それは消極的なものにすぎないから、かならずたたきつぶされるにちがいないのである。」

封建社会は数千年つづいたし、資本主義社会も数百年つづいている。こうした社会制度はすでに滅亡してしまっただか、滅亡の途をたどりつつある。こうした社会制度に奉仕する思想はすでに腐りきってしまったている。科学的共産主義は、『共産党宣言』からかぞえても百年あまりしかたっていない。しかし、これは新生の、無敵の勢力である。まさに毛主席がのべているように、「共産主義の思想体系と社会制度はいままさに天地をくつがえす勢い、万雷のとどろく力で、全世界にひろがりあふれ、そのうるわしい青春をたもっている」。偉大な指導者毛主席のすぐれた指導があり、無限に光り輝く、無敵の毛沢東思想があるかぎり、われわれは徹底したマルクス・レーニン主義、毛沢東思想のプロレタリア世界観で、あらゆる搾取階級の思想に

うち勝ち、全世界における共産主義の偉大な勝利をかちとる大きな確信をもつことができるのである。

(一九六七年第十五号)

「私心とたたかい、修正主義を批判する」ことは プロレタリア文化大革命の根本方針である

『人民日報』社説

われわれの偉大な指導者毛主席は、さいきん、全国の労働者、農民、人民解放軍の指揮員・戦闘員、紅衛兵の小勇将、革命的幹部および革命的知識人にたいして、私心とたたかい、修正主義を批判しなければならないという偉大な戦闘的呼びかけを発した。

毛主席の親密な戦友林彪同志は、中華人民共和国成立十八周年祝賀大会で、毛主席のこの最新の指示を伝えた。林彪同志は、「私心とたたかうとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、自分の頭のなかにある『私』とたたかうことである。修正主義を批判するのは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、修正主義に反対し、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派と闘争することである。この二つの事がらは互いにつながっているものであり、闘争によって十分に『私』をとりのぞかなければ、修正主義反対の闘争をい

っそうりっぱにやりぬくことはできない」と指摘している。

「私心とたたかい、修正主義を批判する」——このことばはひじょうに的確に、ひじょうに科学的にプロレタリア文化大革命の基本内容を概括しており、社会主義の全歴史的時期における「ブルジョア階級批判」の基本内容を概括している。これは、わが国のプロレタリア文化大革命が全面的な、完全な勝利をかちとることを保証する根本方針であり、資本主義の復活を防ぎ、プロレタリア独裁を強化し、うち固め、全国を真紅に輝く毛沢東思想の大きな学校にするうえでの根本方針である。

プロレタリア階級がブルジョア階級の手中から権力を奪取することは、比較的短期間になしとげることができる。搾取階級の所有制をくつがえすことも、それほど長い期間を必要としない。しかし、数千年にわたって搾取階級が残してきた古い思想体系を消滅し、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想で人びとの魂を改造するには、ひじょうに長い期間が必要である。

マルクス・レーニン主義、毛沢東思想は、一貫して思想は物質からくる、と考えている。社会的意識は社会的存在からくるものであり、社会の経済的土台、社会の所有制からくるものである。人びとの社会的存在は、人びとの思想を決定する。しかし、思想は逆に、社会の政

治・経済の発展にたいしてきわめて大きな能動的役割を果たし、一定の条件のもとでは、決定的な役割を果たす。搾取階級の要求を反映する古い思想は、古い経済的土台に奉仕するものであつて、社会の発展を阻害する役割を果たす。先進的階級の要求を反映する新しい思想は、新しい経済的土台に奉仕するものであつて、社会の発展を促進し、速める役割を果たす。先進的な思想は、ひとたび大衆ににぎられると、社会の発展を推進する強大な物質的な力となる。したがって、われわれは古い思想を大いにうち破り、新しい思想を大いにうち立てなければならぬのである。

搾取階級の古い思想はどこが古いのだろうか。もっとも本質的なことは、「私」という点、つまり自分のため、「私」のためという観点から世界をみている点にある。搾取階級の利己主義は、資本主義が育つ天然の土壌であり、修正主義が生まれる重要な要素であり、社会主義の共有経済を瓦解させ、プロレタリア独裁をくつがえす思想的病菌である。

修正主義は、労働者階級の内部におけるブルジョア階級の古い思想体系のもっとも集中的な代表者であり、もっとも頑固な擁護者である。プロレタリア独裁の機構のなかにひそんでいる資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派は、マルクス・レーニン主義のペールをま

いながら、実際にはプロレタリア独裁をブルジョア独裁に変えようとする修正主義分子なのである。

このことは、プロレタリア独裁をうち固め、強化し、資本主義の復活を防止するには、かならず政治・思想面での大革命をくりひろげなければならぬ、ということを物語っている。毛主席がみずからおこし、指導している今回のプロレタリア文化大革命は、とりもなおさず修正主義にたいする革命、すべての古い思想にたいする革命であり、人の魂を改造し、人の思想の革命化を実現するものである。したがって、プロレタリア文化大革命のなかで、われわれはかならず「私心とたたかい、修正主義を批判し」なければならぬのである。

いま、プロレタリア文化大革命はすでに決定的な勝利をおさめている。この大革命を最後までやりぬくには、われわれは毛主席の偉大な戦略配置にしっかりとしたが、なん億という大衆を立ちあげさせ、毛沢東思想を武器に、革命的大批判をより広く、より深くくりひろげて、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派を、政治、思想、理論の面から批判によってうち倒し、くさいものにし、革命的大批判のなかで、それぞれの単位の闘争、批判、改革と結びつけて、革命的大連合、革命的三結合を強化、発展さ

せ、各分野に流された修正主義の害毒を徹底的に一掃しなければならない。プロレタリア文化大革命を最後までやりぬくには、また、毛沢東思想を運用して、われわれの隊列のなかにある無政府主義、小集団主義、セクト主義、個人主義、実用主義を克服し、政治闘争の任務を達成するうえで妨げとなるさまざまな非プロレタリア思想をとりのぞかなければならない。

われわれすべてのプロレタリア革命派、すべての革命的同志は、自分を革命の動力とみなすとともに、自分を革命の対象とみなさなければならず、修正主義批判の先鋒となるとともに、「私」とたたかう勇将とならなければならない。もし「私」とたたかわず、自分にたいして革命をおこなわないならば、修正主義にたいする批判もりっぱにやることはできない。のみならず、修正主義的なものに惑わされたり、さらには修正主義のどろ沼におちこんでしまうことさえありうるのである。同じように、修正主義を批判する戦闘に積極的に身を投じないならば、魂に深くふれ、「私」と思い切りたたかうことができない。

林彪同志は、「われわれは毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、『私心とたたかい、修正主義を批判する』ことをかなめにして、軍隊の幹部、地方の幹部、紅衛兵にたいする思想教育を強化しなければならない。いろいろな学習班を中央につくり、地方につくり、またそれぞれの

革命的大衆組織にもつくって、全国を毛沢東思想の大きな学校にしなければならない」と指摘している。

学習班をつくって、幹部を教育し、大衆を教育するうえでなによりも大切なことは、プロレタリア文化大革命のなかでのさまざまな問題、さまざまな生きた思想をもって、苦勞をいとわず、真剣に毛主席の著作を活学活用することである。毛主席の従来からの教えにもとづき、

「**団結——批判と自己批判——団結**」の公式を運用して、大衆が自分で自分を教育するようにしなければならない。自分の欠点や誤りにたいしては、主として自己批判の方法で、「私」をうち破り「公」をうち立て、経験を総括し、教訓をくみとり、それを改めるようにしなければならない。学習のなかで、われわれの古い幹部、新しい幹部、革命の小勇将たちが思想・政治水準を高め、毛沢東思想と毛主席のプロレタリア革命路線の基礎のうえに新しい団結に到達し、「私心とたたかい、修正主義を批判する」なかで、人民のために新しい功績をたてるようにしなければならない。

(一九六七年十月六日)

修正主義を批判するには

私心とたたかわなければならぬ

『解放軍報』社説

偉大な指導者毛主席の「私心とたたかひ、修正主義を批判する」という最新の指示は、プロレタリア文化大革命の基本内容をもっとも高度に概括したものであり、プロレタリア独裁の条件のもとで革命をおこなうための偉大な綱領である。

私心とたたかうということと修正主義を批判するということは、互いにつながりをもった二つの事がらである。修正主義を批判するには私心とたたかわなければならぬ。私心とたたかってこれを十分に取りのぞかなければ、修正主義反対の闘争をよりよく最後までおしすすめることはできないのである。

私心とたたかうということは、私有観念という「私」とたたかうことであり、私利私欲という「私」とたたかうことである。私有観念や私利私欲は私有制の経済的土台から生まれ、また

逆に、私有制の経済的土台に奉仕するものであって、それは修正主義の発生と発展の思想的根源である。わが国では、経済的土台は改められ、社会主義の共有制が私有制にとってかわっている。しかし、古い上部構造である私有観念は自然に消滅するものではない。それはなお長期にわたって存在し、新しい社会主義の経済的土台に腐食作用と破壊作用をおよぼす。われわれがもし私有観念を肅清し、一掃する活動をうまずたゆまずおこなわないならば、われわれの社会主義の経済的土台を強化・発展させることができず、資本主義復活の危険が存在するのである。

資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派と社会のすべての化物どもが必死になってまもっているのは、ほかでもなく私有制と私有観念である。プロレタリア文化大革命は古いものをうち破るのであるが、それが古い制度であろうと、古い思想、古い文化、古い風俗、古い習慣であろうと、結局のところ、「私」をうち破ることなのである。

プロレタリア文化大革命は階級敵とのげいし格闘のなかで発展するものであり、同時にまた自己の隊列のなかの「私」をうち破り、「公」をうちたてる過程で発展するものである。

毛主席は、「われわれの隊列のなかの小ブルジョア思想をプロレタリア革命の軌道にうまく

導いていかなければならない。これはプロレタリア文化大革命が勝利をおさめるうえでカギになる問題である」とわれわれに教えている。これはつまり、「私」を大いにうち破り、「公」を大いにうち立てるようわれわれに要求しているのである。一年余りのプロレタリア文化大革命の実践は、「私」とのたたかいをよくやっているところでは修正主義の批判が徹底しており、プロレタリア文化大革命が順調にすすめられており、おさめた成果も大きいということ、逆に、「私」がわざわざいしているところでは、小ブル的な派閥性がひるがり、無政府主義、小集団主義、ナワ張り主義が氾濫して、ついているすきを敵にあたえ、プロレタリア文化大革命に反復と曲折をもたらすということを十分に物語っている。

「私」が先にくるならば、修正主義を真剣に批判することはできない。「私」とたたかってこれを取りのぞかなければ、修正主義を批判し倒すことはできないのである。

「私」をもって修正主義を批判するなら、正しい立場、はっきりとした是非の基準がないので、「左」右にぐらつき、善悪を区別できず、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想と修正主義との境界線をはっきりとひけず、社会主義の道と資本主義の道との境界線をはっきりとひけず、プロレタリア革命路線とブルジョア反動路線との境界線をはっきりとひけない。

「私」をもって修正主義を批判するなら、奴隸主義をうち倒しても無政府主義があらわれ、古いセクト主義をうち倒しても新しいナワ張り主義があらわれる。これは、ブルジョア思想のひとつの形態をブルジョア思想のもうひとつの形態にとつてかわらせるにすぎないのである。

「私」をもって修正主義を批判するなら、修正主義を批判し倒すことができないばかりでなく、自分もまた修正主義の道にすべりおちてしまう。

「私」と修正主義はいずれも利己主義であって、ブルジョア世界観という点では共通している。「私」という椅子に腰をおろして修正主義を批判し、それで修正主義を批判し倒し、徹底的に批判しうるなどは、考えられないことである。

プロレタリア文化大革命の重点は、資本主義の道をあゆむ党内のひとにぎりの実権派をたたきつぶすことである。それと同時に、人びとの世界観の問題をも解決しなければならず、ブルジョア思想を消滅し、修正主義の根を掘りだしてしまわなければならないのである。これは世界観の徹底的な革命であり、人びとの魂を改造する革命であり、「私」をうち破り「公」をうち立てる大革命である。すべてのプロレタリア革命派はみな、史上に前例のないこの大革命のなかで、自分を革命の一つの力とみなすとともに、自分を革命の対象とみなし、マルクス・

レーニン主義、毛沢東思想を運用して、自分の頭のなかの「私」とたたかい、徹底的に世界観を改造しなければならない。

「私」を「公」にかえ、ブルジョア世界観をプロレタリア世界観にかえてはじめて、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、毛主席のプロレタリア革命路線の側に断固として立つことができるのであり、プロレタリア階級の党性をなによりも高い地位におき、人民の利益をなによりも高い地位におくことができるのであり、また毛主席の偉大な戦略配置にしっかりとしたがって、革命闘争の大方向をしっかりとつかみ、革命的大連合と革命的「三結合」を強化、発展させ、火力を集中し、目標をしぼり、中国のフルシチョフをかしらとする資本主義の道をあくまで党内のひとにぎりの実権派を闘争によってうち倒し、くさいものにし、深くつつこんで徹底的に批判し、それぞれの単位の闘争、批判、改革を勝利のうちになしとげることができるのである。

(一九六七年十月八日)

プロレタリア独裁のもとでの文化大革命の勝利万歳

1968年 初版発行

定価 40 円

出版者

外文出版社
(北京阜成門外百万莊)

発行者

中国国際書店
(北京 P. O. Box399)

編号: (日)3050-1761

3-J-868P
00031

既刊図書案内

★毛沢東著作★

毛沢東著作選

上製
並製
五八〇円
四四〇円

本書は、日本の広範な読者の毛沢東著作学習の必要にこたえて、毛沢東著作選読編集委員会が中国共産党中央委員会毛沢東選集出版委員会の指導のもとに編集した『毛沢東著作選読（甲種本）』（一九六五年四月第二版）を完訳したもので、中国革命の各時期における毛沢東同志の著作の一部三十九編がおさめられている。

毛主席語録

赤色ビニール表紙
一五〇円

毛沢東主席の人民戦争についての語録

赤色ビニール表紙
二〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

中国社会各階級の分析

新民主主義論

延安の文学・芸術座談会における講話

アメリカの記者アンナ・ルイズ・ストロングとの談話

毛沢東同志は論じている——

帝国主義といっさいの反動派はハリコの虎である

「人民に奉仕する」「ベチューンを記念する」「愚公、山を移す」

敵に反対されるのは悪いことではなく、よいことである

書物主義に反対する

三〇円

六〇円

四〇円

三〇円

四〇円

四〇円

三〇円

三〇円

全世界の人民は団結して、アメリカ侵略者と

そのすべての手先をうち破ろう

——アメリカ黒人、ベトナム南部人民、パナマ人民、日本人、コンゴ
(レ)人民、ドミニカ人民の反米正義の闘争を支持する声明と談話

三〇円

農業協同化の問題について

四〇円

湖南省農民運動の視察報告

六〇円

中国の赤色政権はなぜ存在することができるのか

三〇円

大衆の生活に関心をよせ、活動方法に注意せよ

二〇円

文学・芸術に関する五つの文献

二〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店 (北京)

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店 (北京)

★重要決定、理論論文★

国際共産主義運動の総路線についての論戦

三四〇円

目次内容

国際共産主義運動の総路線についての提案

ソ連共産党指導部とわれわれとの意見の相違の由来と発展
スターリン問題について

ユーゴスラビアは社会主義国か

新植民地主義の弁護人

戦争と平和の問題での二つの路線

根本的に対立している二つの平和共存政策

ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である

プロレタリア革命とフルシチョフ修正主義

フルシチョフのエセ共産主義とその世界的教訓

フルシチョフはなぜ退陣したか

付録

ソ連共産党中央委員会が中国共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会がソ連各級党组织と全共産党員にあてた公開書簡

出版者 北京 外文出版社

発行者 中国国際書店 (北京)

人民戦争の勝利万歳

林彪

四〇円

——中国人民の抗日戦争勝利二十周年を記念して

目次内容

抗日戦争の時期における主要な矛盾と党の路線

統一戦線の路線と政策を正しく実行する

農民に依拠し、農村根拠地を樹立する

新しい型の人民の軍隊を建設する

人民戦争の戦略・戦術を実行する

自力更生の方針を堅持する

毛沢東同志の人民戦争にかんする理論のもつ国際的意義

人民戦争によってアメリカ帝国主義とその手先にうち勝つ

フルシチョフ修正主義者は人民戦争の裏切り者である

中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定

三〇円

中国共産党第八期中央委員会第十一次総会の公報

三〇円

出版者 北京 外文出版社

発行者 中国国際書店 (北京)

近 刊 予 告

★毛沢東著作★

毛 沢 東 選 集 (第一卷)

本巻には、第一次国内革命戦争の時期（一九二四～一九二七年）と第二次国内革命戦争の時期（一九二七～一九三七年）における毛沢東同志の十七編の著作がおさめられている。

哲学論文四編

目次内容

実践論

矛盾論

人民内部の矛盾を正しく処理する問題について
人間の正しい思想はどこからくるのか

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

